contents

[特集1]震災から13年
震災の教訓を未来につなぐ ―― p01
[しあわせレシピ]
桜咲く具だくさんしゅうまい ―― p05
[復興キラリ]
おおつち海の勉強室 ―― p06
[まち・ひと・しごと 住みたい県へ！]
子どもの遊び場 ―― p07
[教えて！いわて県民計画]
文芸活動の振興 ―― p08
[わがまちにズームin]
葛巻町 ―― p09
[ローカル線でいわて旅]
JR大船渡線・JR大船渡線BRT&三陸鉄道リアス線 ―― p10
[特集2]新型コロナウイルス感染症対策
ちょっと改善、いますぐ実行！生活の見直しから健康づくり！ ―― p11
岩手県からのお知らせ ―― p13
[NEXT STARS]
輝く岩手の若者たち！読者アンケート＆プレゼント ―― 裏表紙

当誌に掲載されている情報は、2024年2月1日現在のものです。新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況によっては、掲載した内容に変更が生じる場合があります。

#いわてグラフキャンペーン

X（旧Twitter）、Facebook、Instagramに「#いわてグラフ」をつけて、投稿すると岩手のいいものをプレゼント！

■**当選商品**：三陸まるごとほたてカレー2個セット（CAFE DE CURRY KOJIKA）
■**当選者数**：4名様
■**応募期間**：**2024年3月1日（金）～3月17日（日）**
■**応募方法**：「#いわてグラフ」をつけて、あなたが読んでほしい・見てほしいと感じた内容をX（旧Twitter）、Facebook、Instagram、いずれかのSNSから投稿してください。投稿いただいた方の中から抽選で岩手のいいものをプレゼントします。
■**当選発表**：当選した方にはダイレクトメッセージにてお知らせします。ダイレクトメッセージを受け取れるよう設定してください。
■**商品の発送時期**：2024年3月下旬頃を予定しています。
■**お問合わせ先**：県庁広聴広報課
019-629-5283

◀ 詳しくはこちらをご確認ください

[特集1]震災から13年

震災の教訓を未来につなぐ

東日本大震災津波から13年を迎えて

始めに、今般の令和6年能登半島地震で犠牲になられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。また、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災津波の発生から、本年3月11日で13年となります。改めて、犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

岩手県は、東日本大震災津波からの復興に当たり、「いのちを守り　海と大地と共に生きる　ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とし、国内外から多くの御支援を頂きながら、県民一丸となって復興に取り組んできました。

復興道路や津波防災施設の整備などの多くが完了しましたが、復興のステージが進むにつれ、新たな課題も顕在化しています。引き続き、被災者一人ひとりの状況に応じたきめ細かい支援や、主要魚種の不漁対策などなりわいの再生に取り組んでいくとともに、「日本海溝・千島海溝沿い巨大地震」に備え、関係機関と連携した防災・減災対策を進めていきます。

これからも、「誰一人として取り残さない」という理念のもと、新しい三陸の創造を目指し、復興のその先を見据えた取組を進めていきます。

3月11日は、「東日本大震災津波を語り継ぐ日」です。復興の歩みの中で得られた多くの絆や、人と人とが支え合うことの大切さを胸に、東日本大震災津波の教訓を次世代へ語り継ぎ、一人ひとりの大切な人に想いを寄せながら、力を合わせて、ふるさと岩手を築いていきましょう。

岩手県知事
達増拓也

[特集1]震災から13年

震災を学び、復興の姿を見つめるため、歩みを進める三陸へ！

2023年6月4日、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、「第73回全国植樹祭いわて2023」を開催しました。式典会場の高田松原津波復興祈念公園と県内のサテライト会場を合わせ、県内外から7000人を超える方々が参加。森林や林業に対する理解を深めるとともに、これまでに頂いた支援への感謝と、復興に取り組む姿を発信しました。

また、久慈市や山田町に新たな「道の駅」が開業し、岩手県立陸前高田オートキャンプ場がリニューアルオープンするなど、復興に向かって着実に歩みを進める三陸。その一方で、震災を経験していない世代への伝承など、取り組んでいくべき課題もあります。

時間の経過とともに震災の風化が懸念されていますが、私たちが震災から得た教訓は世界中の人々に必要なもの。いつ起きるか分からない災害からいのちを守るため、震災の事実と教訓を多くの人に発信し、次の世代へ伝承していきましょう。

「第73回全国植樹祭いわて2023」式典の様子

「第73回全国植樹祭いわて2023」天皇皇后両陛下によるお手植え

岩手県立陸前高田オートキャンプ場（スノーピーク陸前高田キャンプフィールド）

震災の教訓を学びながら、自然の魅力に触れてみませんか。

震災の事実と教訓を国内外へ発信し、後世へ伝承することを目的とする東日本大震災津波伝承館。解説員を務める千田房代（ふさよ）さんは、大船渡市三陸町出身。最近は震災を経験していない子どもたちや、県外からの来館客が増えていると言います。

「大震災は絶対に忘れてはいけないこと。自然災害はいつどこで起きるかわかりません。だからこそ、日頃の備えと訓練が大事。ここでの学びを通して、命の守り方を伝えていきたい」と話します。

解説員として来館者に接する中で、地球の活動に興味を抱いた千田さんは、三陸ジオパークの認定ガイドとしても活躍しています。「ジオパークの魅力は、地球の時間を感じられること。景観が作り出された過程を知ると、より深く楽しむことができますよ」と、千田さん。

自然の「脅威」と「恵み」の両方と共に歩む三陸。その歩みを見つめることで、震災の学びや、ふるさとへの思いを深めてみませんか。

伝承館の解説員と三陸ジオパークの認定ガイドを務める千田房代さん。

震災の学びを教育に生かし、「生きる力」を育んでいく

東日本大震災津波の事実と教訓を学び、伝えていくことは、郷土を愛し、地域の復興・発展を支える人材を育てることにつながります。

県は、震災の教訓を生かし、未来を創造していくために、「いわての復興教育」を基盤とした学校教育を進めています。それぞれの学校で地域に応じた取り組みを進め、子どもたちに「生きる力」を育むことが目的です。

こうした活動を共有するため、毎年、「いわての復興教育」児童生徒実践発表会を開催しています。2023年度の発表会では、山田町立山田小学校、釜石市立釜石中学校、宮古恵風支援学校による「実践発表」が行われたほか、「パネルディスカッション」には、大迫・金ケ崎・大船渡・岩泉の4県立高校が登場。復興教育から得た学びなどについて意見を交わしました。

釜石市立釜石中学校

ふるさとの未来を支えるために、地元の震災と復興を学ぶ

同校では、沿岸地域の震災伝承施設などの見学や人々との関わりを通して、復興や防災について学ぶため、2学年を対象とした1泊2日の宿泊研修を実施しました。研修では、県立野外活動センターでの避難所設営やキャッセン大船渡でのAR防災ゲームを体験したほか、東日本大震災津波伝承館などを見学。また、三陸鉄道の震災学習列車（釜石駅～盛駅間）で車窓からの様子を見ながら復興状況を学びました。生徒たちは研修で学んだことをまとめ、自分たちが未来のためにできることを発表会や個人新聞で発信しています。

岩手県立金ケ崎高等学校

多様な体験や学びを通して、自分たちにできることを考える

「予測不可能な社会を生きるために」というテーマを掲げ、同校では防災意識を高めるさまざまな取り組みを行っています。水害の怖さを学ぶ北上川の水害学習や、身近な通学路の危険個所の確認、大船渡高校との交流を通した震災・復興学習のほか、避難訓練や避難所運営ゲームで災害時の具体的な行動についても体験的に学んでいます。こうした学びを通して生徒たちは、「自分たちにできることは何か」を自問自答。予測できない災害にどう向き合うかを、普段から考え、行動できる力を育んでいます。

震災と防災の学習拠点として、図書館を活用しよう！

図書館内に新設された「I-ルーム」。ここでは会話もできるのでグループ学習やワークショップなどに最適です。

岩手県立図書館の森本晋也館長

震災当時、避難所などで発行されたチラシ

2023年11月、岩手県立図書館に震災・防災の学び合いスペース「I（あい）-ルーム」を開設しました。書架には、東日本大震災津波やさまざまな災害、防災に関する資料や関連本など、約1万点を配架。県内の避難所や市町村のチラシ、発行物なども集められ、当時の様子を時系列で追うことができます。

I-ルームでは、職員がこれらの図書や資料の探し方、調べ方を支援したり、テーマや学習内容に応じた図書をセットで貸し出すなど、児童生徒やグループの探究的な学びをサポート。また、自然災害を総合的に学べる拠点として、県内の震災伝承施設と連携し、各施設の特色や展示などについても紹介しています。

「内陸に震災と防災に特化した拠点を作ることで、沿岸部での教育旅行の事前学習や研究者のリサーチなど、いろいろな使い方ができます。多くの人が震災に触れ、考えるきっかけになれば」と、森本晋也（しんや）館長。今後は防災に関するワークショップなども企画していく予定です。

［問］岩手県立図書館
盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号
いわて県民情報交流センター（アイーナ）内
019-606-1730

岩手県立図書館HPはこちら▲

震災の教訓を、絵本で読み聞かせしませんか？

就学前の子どもたちにも、絵本を通して震災の学びを伝えてみませんか。県は「いわての復興教育」の3つの教育的価値である「いきる・かかわる・そなえる」をテーマにした絵本を作成しています。幼稚園などの就学前施設や学校、図書館などに配付しているほか、県ホームページからもダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

［問］県教育委員会事務局学校教育室
019-629-6139

絵本のダウンロードはこちら▲

『みんながいるから』

「かかわる」をテーマにした作品です。キッチンカーの「カーチン」を主人公に、仲間や地域の人々との触れ合いや困難を共に乗り越える体験を通して、成長していく物語です。誰かのために自分が役立てることなどに気づき、「かかわることによる自己の成長」を実感していきます。

『てとてをつないで』

「いきる」をテーマにした作品です。手の温もりを通して親から子へと命が引き継がれていること、不安なことに遭遇した時でも手をつないでもらうことで安心感を得られるということを伝えています。風景などの描写に岩手らしさを盛り込み、ふるさとを愛する気持ちも育みます。

『だいじなもの』

「そなえる」をテーマにした作品です。主人公の「のんくん」と「みーたん」は、ある日突然、非日常の世界へと迷い込みます。不安や空腹、寒さなどを乗り越え、元の世界に戻った2人。不思議な世界での経験や教訓から、「困ったときにあるといい大事なもの」について考えるきっかけを作ります。